



た つ ど し

校 長 佐々木 秀之

あけまして おめでとうございます。

辰年を迎えました。小学校では平成24年(2012年)に生まれた子供たちが年男、年女ということになります。干支の中で5番目にあたる辰は一年でいう5月にあたり、新緑が勢いよく芽吹く季節です。このことから、辰年は成長や発展の年だとされています。また、辰は草木の形が整った状態のことをいうようで、これから新しい物、事が生まれてくる準備が整った状態を表しているそうです。

十二支それぞれに動物があてはめられていますが、辰は唯一想像上の動物である龍が配されています。物事が相整い発展する様を、天に昇る龍に喩えたのでしょうか。

龍や竜にかかることわざや話にはどのようなものがあるか思い浮かべていたとき、以前、国賓として来日されたブータンのワンチュク国王のお言葉を思い出しました。国王は東日本大震災の被災地、福島県相馬市立桜丘小学校を訪れた際、5・6年生に向かって、「励ましと親愛の情を示すために来ました。」と述べられ、「みなさんの中に人格という竜がいます。年を取って経験を積むほど竜は大きく強くなります。」とお話になられたといいます。

竜は古来より強くて立派なものとして喩えられています。国王は、人間が一番大切なことは人格を磨くことだということをお伝えになりたかったのではないのでしょうか。教育の目標は教育基本法第1条に「教育は、人格の完成をめざし…」という書き出しで定められています。学校の教育は、教科の学習を含めた生活全てが人格形成のために行われている教育活動です。しかし、この教育基本法でいう教育は学校教育だけではありません。家庭教育、社会教育など全ての教育を指しており、全ての教育は人格の完成のために行われています。子供たちの中にいる竜を大きく強くするために、たくさんの経験をさせることができるよう、本年も努めてまいります。

人格形成に終わりはありません。竜は私たちの中にいるとともに、私たちのことを見ていて、心や行為に相応するものを与えてくれるのではないかと思います。私たちの中にいる気高き竜に恥じない一年にしたいものです。